

月9万円 沖縄の島で暮らす



ゆったり

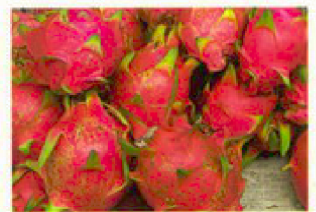
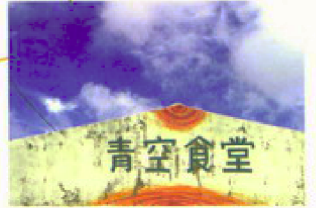
Life in Okinawa

夢を実現してスローライフ



初公開!!

宮古・石垣島不動産情報・一挙掲載



現地徹底取材による、 島暮らしガイド・ブック!!

- 夢を実現した移住者12人に聞く
- 離島の業者が語る、現地不動産事情
- 石垣島情報誌・編集長に聞く就職情報



沖縄の素材を使った料理の味は、繊細で素晴らしい



20坪の店内は落ち着いた和風の造り



娘を追って宮古島へ……

新宿仕込みの腕で、
お客様をもてなしますわ

● クラブママ ◆◆◆ 小料理屋オーナー

1年を通じて暖かい気候と、南国特有のハッピーな空気。沖縄の不思議な魅力に吸い寄せられて、最近、島で暮らすナイチャー（本土の人）が増えている。そして、その一人ひとりが各自の物語を背負っている。

毎朝、宮古島の代表的な海岸・砂山ビーチで犬を散歩させる二人の女性がいる。猪須博子さん（64歳）とお嬢さんだ。

二人はこの付近に住んでいて天気が良ければダイエットを兼

小料理屋経営

猪須博子さん

Hiroko Inosu



Miyako

沖縄の島でスローライフ
Life in Okinawa

（宮古島）





カウンターからお客をもてなす



店では和服専門だ



猪須さんオリジナルの、ゴーヤーのピクルス風



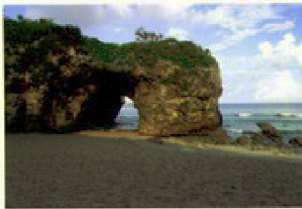
猪須さんは、昔懐かしいエプロン姿が良く似合う



予約の電話が次々と入る

ねた散歩が日課。1軒家の1、2階に別れ、猪須さんのお母さんを交えた3世代で暮らしている。空港から車で15分の、宮古島の飲み屋街・宮里で和風小料理屋を開く猪須さんは、2年前、東京からお嬢さんを追って越してきた。東京では22年間、新宿歌舞伎町でクラブをやっていた、やり手で鳴らした美人ママだ。

「長崎は佐世保の古い割烹旅館の娘で、佐賀の高級旅館に嫁ぎました。ところが、そこを飛び出して、東京に出たんです」娘時代、東京のお嬢様学校に通っていた猪須さんの孤軍奮闘が始まり、やがてある縁で、新宿で「みみ」という名のクラブをやることになる。「長崎県人がよく来てくれました。上京すると必ず寄ってくださるんですよ。それで、あの競争



の激しい歌舞伎町で長年やってこれたんです。『みみ』ですか？私が3月3日生まれのものですから。宮古へ来た理由：」

過労から痛にかかった猪須さんは、それを乗り越えて頑張ったが、お嬢さん夫妻が宮古島へ来たこともあって、2年前、島への転居を決意する。

今は好きなゴルフ三昧

「新宿みみ」は宮里の洒落たビルの2階にあり、内装のセンスがいい落ち着いた店だ。猪須さんの白い割烹着とおふくろの味が売り物で、インターネットの宮古島・飲食店ランキングではダブルA。

店は20坪で、家賃5万円。本土から見るとずいぶん安いのが、収入の低い島では平均水準だ。

2年前、この店を借りるために大家さんに面会を申し込んだところ、ナイチャーということ会で会ってもらえず、最後は和服姿で直談判したという。

通り過ぎる分には優しいが、沖縄の人の心の奥にはドアがあつて、ナイチャーを容易には中に入れないのが現実。

元高級旅館の女将だった猪須さんは料理が上手い。材料を吟味して腕を振るっているが、野菜などは、本土を台風が襲い大雨が続くとすぐ値上がりするのが悩みだ。

島の食材を使った上品な味と、ママの人柄に魅せられたファンが多く、医療関係者などが常連で、店の成績も順調だ。

「島の人はおおらかで、コセコセせず、先祖と年寄り、友達を大事にするのがいいわね。ここにはいっぱい本土の人が来ていて、退職金で家建て、年金で暮らしているわ」

と、すっかり宮古島に溶け込んだ猪須さんは、近々、宮古島の中心部から10分ほどの砂山ビーチのそばに、お母さんと住む家を作るといふ。

交通事故の後遺症で痛んでいた足も暖かい気候のお蔭で治り、現在は好きなゴルフ三昧。朝は犬を散歩させて砂山ビーチを歩き、すっかり東京のストレスは消えてしまった。

ゆんわりした島の空気が肌に合い、今は、この島に永住しようと考えている猪須さんだ。



砂山ビーチの砂山を登る（上）
愛犬と一緒に走る娘さん（左）
砂山が開け、目に海が飛び込んで来る（中）

沖縄の島でスローライフ
Life in Okinawa

宮古島





まだひんやりと涼しい早朝の海は別世界

毎朝の愛犬とのビーチ散歩が二人の健康法

